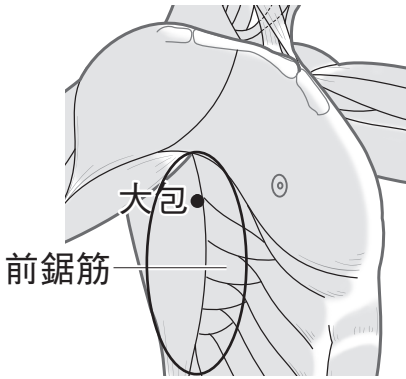
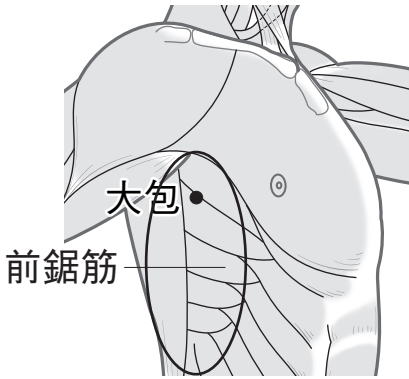
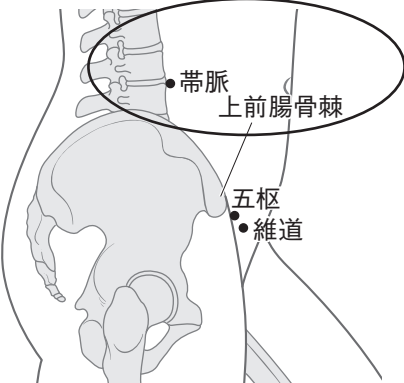
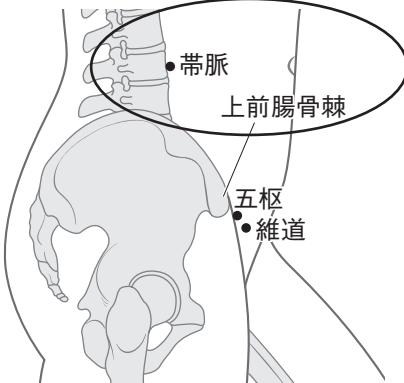
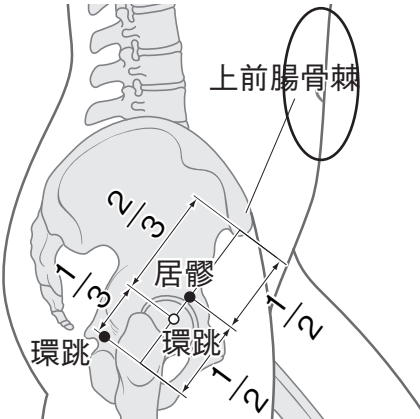
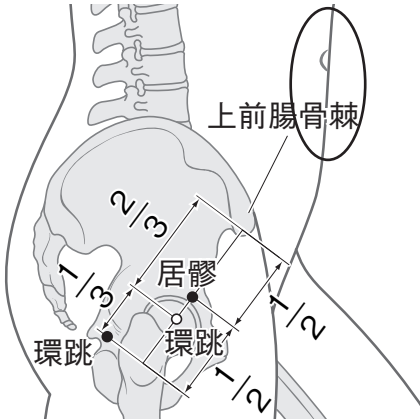


『新版 経絡経穴概論 拡大版』
第1版4刷から第2版1刷に伴う変更点

ページ数	変更箇所	変更前	変更後
14	表1-2 骨度法「上肢」2行目(※マークの追加)	腋窩横紋前端または後端～肘窩	腋窩横紋前端または後端～肘窩※
15	表1-2の最後の行に文字を追加		※便宜上、肩峰外側端～肘窩までを次のように定める。 上肢を下垂したとき：1尺2寸 肩関節を90度外転したとき：1尺
46	「脳戸」取り方(文章の追加)		※脳空(胆経)と同じ高さにあたる。
48	「百会」取り方	左右の耳介を前に折り、その上角を結ぶ線の中点に取る。	左右の耳介を前に折り、その上角(耳尖)を結ぶ線の中点に取る。
52	「神庭」取り方(文章の追加もあり)	前髪際がはっきりしない場合は、眉間の中央の上方3寸5分にとる。	前髪際がはっきりしない場合は、眉間の中央の上方3寸5分にとる。 ※前髪際の後方5分には前正中線から、神庭、眉衝(膀胱経)、曲差(膀胱経)、頭臨泣(胆経)、本神(胆経)、頭維(胃経)が並ぶ。
66	「臑中」取り方(文章の追加)		※第4肋間の高さには前正中線から、臑中、神封(腎経)、乳中(胃経)、天池(心包)、天溪(脾経)、輒筋(胆経)、淵腋(胆経)が並ぶ。
68	「璇璣」部位	前胸部、前正中線上、頸窩の下方1寸。	前胸部、前正中線上、頸窩(胸骨上窩)の下方1寸。
68	「天突」部位	前頸部、前正中線上、頸窩の中央。	前頸部、前正中線上、頸窩(胸骨上窩)の中央。
80	「太淵」取り方(文章の追加)		※太淵、大陵(心包経)、神門(心経)は手関節掌側横紋上に並ぶ。
88	「陽溪」取り方(文章の追加もあり)	長母指伸筋腱と短母指伸筋腱との間で、母指を十分に外転・伸展させたときにできる陥凹中、橈骨と舟状骨との間にとる。 ※陽溪から曲池までの長さを1尺2寸とする。	タバコ窩(橈骨小窩)の陥凹部で、手関節背側横紋橈側、橈骨と舟状骨との間にとる。 ※タバコ窩(橈骨小窩)は、長母指伸筋腱と短母指伸筋腱との間で、母指を十分に外転・伸展させたときにできる。 ※陽溪から曲池までの長さを1尺2寸とする。 ※陽溪、陽池(三焦経)、陽谷(小腸経)は手関節背側横紋上に並ぶ。
94	「肘髁」取り方(文章の追加もあり)	曲池の後上方で、 <u>上腕骨外側上顆上際</u> の前縁にとる。	曲池の後上方で、上腕骨の外側顆上稜の前縁にとる。 ※外側顆上稜とは、上腕骨外側上顆の上縁のあたりで、上腕骨の外側縁下端で外側上顆へ斜めに連なる部分をいう。
94	「手五里」取り方	曲池の上方3寸、上腕三頭筋の外側縁にとる。	曲池と肩髁を結ぶ線上、曲池の上方3寸、上腕三頭筋の外側縁にとる。
94	「臂臑」取り方	肩髁の下方3寸、三角筋の前縁にとる。	曲池の上方7寸、三角筋の前縁にとる
98	「扶突」取り方(文章の追加)		※甲状軟骨上縁の高さで、胸鎖乳突筋の前縁に人迎(胃経)、中央に扶突、後縁に天窓(小腸経)が並ぶ。
104	「承泣」取り方	正視させて、瞳孔を通る垂線と <u>眼窩下縁との交点</u> にとる。	正視させて、瞳孔を通る垂線上で、眼球と眼窩下縁の間にとる。
108	「頭維」取り方(文章の追加)		※前髪際の後方5分には前正中線から、神庭(督脈)、眉衝(膀胱経)、曲差(膀胱経)、頭臨泣(胆経)、本神(胆経)、頭維が並ぶ。
108	「人迎」取り方	※扶突(大腸経)の内方にあたる。	※甲状軟骨上縁の高さで、胸鎖乳突筋の前縁に人迎、中央に扶突(大腸経)、後縁に天窓(小腸経)が並ぶ。
112	「気戸」解剖	[血管] 鎖骨下動脈	[血管] 腋窩動脈
114	「乳中」取り方(文章の追加)		※第4肋間の高さには前正中線から、臑中(任脈)、神封(腎経)、乳中、天池(心包)、天溪(脾経)、輒筋(胆経)、淵腋(胆経)が並ぶ。

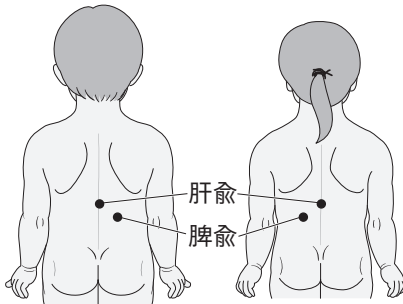
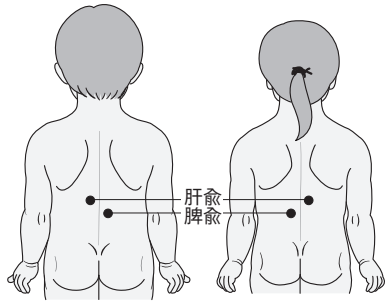
ページ数	変更箇所	変更前	変更後
116	「不容」取り方(文章の追加)		* 胸骨下角が狭く、不容の下に肋骨がある場合の刺鍼は斜刺で行う。
124	「髀関」取り方(文章の追加)		* 大腿部の胃経の経穴はすべて上前腸骨棘と膝蓋骨底外端とを結ぶ線上に取る。
151	イラストの修正		
158	「神門」取り方(文章の追加)		* 太淵(肺経), 大陵(心包経), 神門は手関節掌側横紋上に並ぶ。
162	「経脈の流注」4行目	咽喉をめぐり、横隔膜を貫いて胃に至り、	咽喉、食道をめぐったのち、横隔膜を貫いて胃に至り、
168	「陽谷」取り方(文章の追加もあり)	手関節の後面で、 <u>尺骨茎状突起直下の陥凹中</u> 、尺側手根伸筋腱の内側を取る。 * 陽谷から小海までの長さを1尺2寸とする。	手関節の後内側、三角骨と尺骨茎状突起の間の陥凹部、尺側手根伸筋腱の内側を取る。 * 陽谷から小海までの長さを1尺2寸とする。 * 陽溪(大腸経), 陽池(三焦経), 陽谷(小腸経)は手関節背側横紋上に並ぶ。
170	「支正」取り方	手を胸にあて	手掌を胸にあて
172	「天宗」取り方	肩甲棘中央	肩甲棘の midpoint
174	「秉風」取り方	肩甲棘中央の上縁	肩甲棘中央の直上
176	「天窓」取り方(文章の追加)		* 胸鎖乳突筋は、抵抗に抗して頭を反対側に向けるとより明瞭に現れる。 * 甲状軟骨上縁の高さで、胸鎖乳突筋の前縁に人迎(胃経), 中央に扶突(大腸経), 後縁に天窓が並ぶ。
178	「顴髎」取り方	外眼角を通る垂直線と頬骨下縁との交点に取る。	外眼角を通る垂線上で頬骨下方の陥凹部に取る。
182	「眉衝」取り方(文章の追加)		* 前髪際の後方5分には前正中線から、神庭(督脈), 眉衝, 曲差, 頭臨泣(胆経), 本神(胆経), 頭維(胃経)が並ぶ。
184	「曲差」取り方(文章の追加)		* 前髪際の後方5分には前正中線から、神庭(督脈), 眉衝, 曲差, 頭臨泣(胆経), 本神(胆経), 頭維(胃経)が並ぶ。
192	「膈俞」取り方(文章の追加)		* 肩甲骨下角は第7胸椎棘突起と同じ高さにある。
220	「飛揚」取り方	承山の下方1寸の高さで、 <u>アキレス腱とヒラメ筋とのほぼ中央</u> に取る。 * 崑崙の上方7寸にあたる	崑崙の上方7寸, 承山の外下方1寸, 腓腹筋外側頭下縁とアキレス腱の間に取る。
220	「跗陽」取り方	崑崙の上方3寸で、 <u>アキレス腱と短腓骨筋腱との間</u> に取る。	崑崙の上方3寸, 腓骨とアキレス腱の間に取る。
222	「申脈」取り方(文章の追加もあり)	外果尖の直下、 <u>長腓骨筋腱の上縁</u> に取る。	外果尖の直下、外果下縁の下方陥凹部に取る。 * 申脈に対応する内側の経穴は照海(腎経)である。
224	「金門」取り方	第5中足骨粗面の後方、立方骨下方の陥凹部に取る。	第5中足骨粗面の後方、立方骨下方(足底側)の陥凹部に取る。
224	「京骨」取り方(文章の追加)		* 第5中足骨粗面は、踵と第5中足指節関節のほぼ中央にある。
232	「照海」取り方(文章の追加)		* 照海に対応する外側の経穴は申脈(膀胱経)である。

ページ数	変更箇所	変更前	変更後
234	「復溜」取り方(文章の追加)		* 交信と同じ高さで、交信の後方5分にある。
234	「築賓」取り方(文章の追加)		* ヒラメ筋は、膝を屈し、抵抗に抗して足関節を底屈すると脛骨内側縁に明瞭に現れる。 * 太溪の上方5寸、蠡溝(肝経)と同じ高さにある。
236	「陰谷」取り方	膝関節を軽く屈曲したときにできる膝窩横紋上で、半腱様筋腱の外側縁に取る。	膝関節を軽く屈曲したときにできる膝窩横紋上で、半腱様筋腱の外縁に取る。
242	「神封」取り方(文章の追加)		* 第4肋間の高さには前正中線から、臈中(任脈)、神封、乳中(胃経)、天池(心包)、天溪(脾経)、輒筋(胆経)、淵腋(胆経)が並ぶ。
248	「天池」取り方(文章の追加)		* 第4肋間の高さには前正中線から、臈中(任脈)、神封(腎経)、乳中(胃経)、天池、天溪(脾経)、輒筋(胆経)、淵腋(胆経)が並ぶ。
252	「内関」取り方	* 外関(三焦経)と相対する。	* 内関に対応する後側の経穴は外関(三焦経)である。
254	「大陵」取り方		* 長掌筋腱が不明瞭の場合は、橈側手根屈筋腱の内側に取る。 * 太淵(肺経)、大陵、神門(心経)は手関節掌側横紋上に並ぶ。
262	「陽池」取り方(文章の追加)		* 第4・第5中手骨間隙を擦上すると触れることができる。総指伸筋腱は抵抗に抗して手関節を伸展するとより触れやすい。 * 陽溪(大腸経)、陽池、陽谷(小腸経)は手関節背側横紋上に並ぶ。
262	「外関」取り方	* 内関(心包経)と相対する。	* 外関に対応する内側の経穴は内関(心包経)である。
266	「天井」取り方(文章の追加もあり)	肘頭上方1寸で、肘関節をやや屈曲したときにできる陥凹部に取る。 * 肩関節を90度外転したときの肘頭から肩峰角までの長さを便宜上1尺とする。	肘頭上方1寸で、肘関節をやや屈曲したときにできる陥凹部(肘頭窩)に取る。 * 肩関節を90度外転したときの肘頭から肩峰角までの長さを便宜上1尺とする。肩峰角とは、肩甲棘の後縁を外側にたどるとき、肩峰外側縁への移行部に触れる、下方に突き出している角のことである。
267	イラストの修正・追加		
274	「和髎」取り方	頬骨弓後端の上縁で、浅側頭動脈拍動部の後方に取る。	頬骨弓後端の上方で、浅側頭動脈拍動部の後方に取る。
274	「糸竹空」取り方(文章の追加)		* 瞳子髎(胆経)の直上にある。

ページ数	変更箇所	変更前	変更後
280	「頤厭」取り方	頭維(胃経)から曲髻までの側頭髪際に沿った曲線上で、	側頭髪際にほぼ並行して、頭維(胃経)から曲髻までをなだらかに結ぶ曲線上で
280	「懸顱」取り方	頭維(胃経)から曲髻までの側頭髪際に沿った曲線の midpoint に取る	側頭髪際にほぼ並行して、頭維(胃経)から曲髻までをなだらかに結ぶ曲線の midpoint に取る
280	「懸釐」取り方	頭維(胃経)から曲髻までの側頭髪際に沿った曲線上で、	側頭髪際にほぼ並行して、頭維(胃経)から曲髻までをなだらかに結ぶ曲線上で、
286	「頭臨泣」取り方(文章の追加)		*前髪際の後方5分には前正中線から、神庭(督脈)、眉衝(膀胱経)、曲差(膀胱経)、頭臨泣、本神、頭維(胃経)が並ぶ。
288	「脳空」取り方	*脳戸(督脈)と同じ高さにあたる。	*脳戸(督脈)、玉枕(膀胱経)と同じ高さにある。
292	「京門」解剖	外腹斜筋・内腹斜筋	広背筋<筋枝>胸背神経、外腹斜筋・内腹斜筋
295	イラスト(側面図のみ)の修正		
296	「環跳」取り方	*側臥し、股関節を屈曲すると取穴しやすい。	削除
296	「環跳」別説取り方	*この場合も、側臥し、股関節を屈曲すると取穴しやすい。	*環跳は、側臥し、股関節を屈曲すると取穴しやすい。
297	イラスト(側面図のみ)の修正		
304	「丘墟」取り方(*マークを削除して前の行に詰める)	抵抗に抗して足の第2指から第5指を伸展させると、長指伸筋腱がはっきり現れ、その外側陥凹中に入る。 *外果尖の前下方にあたる。	抵抗に抗して足の第2指から第5指を伸展させると、長指伸筋腱がはっきり現れ、その外側陥凹中に入る。外果尖の前下方にあたる。
316	「陰包」取り方	曲泉の上方、膝蓋骨底上方4寸の高さで、縫工筋と薄筋との間に入る。	曲泉の上方、膝蓋骨底上方4寸の高さで、薄筋と縫工筋との間に入る。
316	「足五里」取り方	大腿内側の上部で気衝(胃経)の外下方3寸、動脈拍動部に入る。	大腿内側の上部で気衝(胃経)の下方3寸、動脈拍動部に入る。
316	「陰廉」取り方(文章の追加)		*長内転筋の外方にある。
332	「太陽」取り方(アンダーライン部分の削除)	*前頭骨頬骨突起後縁にあたる。下顎神経(三叉神経第3枝)が支配する。	*下顎神経(三叉神経第3枝)が支配する。

ページ数	変更箇所	変更前	変更後
336	「定喘」取り方	上背部，第7頸椎・第1胸椎棘突起間， <u>外方5分</u> に取る(外方1寸とする説もある)。	上背部，第7頸椎棘突起下縁と同じ高さ， <u>後正中線の外方5分</u> (外方1寸とする説もある)。
336	「巨闕俞」取り方	上背部，後正中線上，第4・第5胸椎棘突起間に取る。	上背部，後正中線上，第4胸椎棘突起下方の陥凹部。
336	「接脊」取り方	腰部，後正中線上，第12胸椎・第1腰椎棘突起間に取る。	上背部，後正中線上，第12胸椎棘突起下方の陥凹部。
336	「痞根」取り方	腰部，第1・第2腰椎棘突起間， <u>外方3寸5分</u> に取る。 *第12肋骨の下縁にあたる。	腰部，第1腰椎棘突起下縁と同じ高さ， <u>後正中線の外方3寸5分</u> 。 *第12肋骨の下際にあたる。
338	「下極俞」取り方	腰部，第3・第4腰椎棘突起間に取る。	腰部，後正中線上，第3腰椎棘突起下方の陥凹部。
338	「腰眼」取り方	腰部，第4・第5腰椎棘突起間， <u>外方3寸5分</u> に取る。	腰部，第4腰椎棘突起下縁と同じ高さ， <u>後正中線の外方3寸5分</u> 。
338	「十七椎」取り方	腰部，第5腰椎棘突起と正中仙骨稜との間に取る。	腰部，後正中線上，第5腰椎棘突起下方の陥凹部。

351 頁のイラストに誤りがありました。お詫びして訂正いたします(この修正は第2版1刷に反映されていません。第2版2刷で変更を予定しています)。

ページ数	変更箇所	誤	正
351	イラストの修正	小児斜差の灸 	小児斜差の灸 

3) 胸腹部の経穴

鎖骨中線

高さ	前正中線	0.5 寸	2 寸	2.5 寸	4 寸	5 寸	6 寸	7 寸	中腋窩線
鎖骨下縁	璇璣		兪府		氣戸		雲門		
第 1 肋間	華蓋		臑中		庫房		中府		
第 2 肋間	紫宮		神蔵		屋翳		周榮		
第 3 肋間	玉堂		靈墟		膺窓		胸郷		
第 4 肋間	膻中		神封		乳中	天池	天溪	輒筋	淵腋
第 5 肋間			歩廊		乳根		食竇		
胸骨体下端 (神闕の上方 8 寸)	中庭								
神闕の上方 7 寸	鳩尾								
神闕の上方 6 寸	巨闕	幽門	不容		期門 (第 6 肋間)				大包 (第 6 肋間)
神闕の上方 5 寸	上脘	腹通谷	承満		日月 (第 7 肋間)				
神闕の上方 4 寸	中脘	陰都	梁門						
神闕の上方 3 寸	建里	石関	関門		腹哀				
神闕の上方 2 寸	下脘	商曲	太乙						
神闕の上方 1 寸	水分		滑肉門						
臍中央(神闕)	神闕	育兪	天枢		大横				帶脈
神闕の下方 1 寸	陰交	中注	外陵						
神闕の下方 1.5 寸	氣海				腹結 (1.3 寸)				
神闕の下方 2 寸	石門	四満	大巨						
神闕の下方 3 寸	関元	氣穴	水道						
神闕の下方 4 寸	中極	大赫	帰来		府舎 (4.3 寸)				
恥骨結合上縁	曲骨	横骨	氣衝	急脈	衝門				

4) 上背腰殿部の経穴

	督脈 後正中線	足の太陽膀胱経 外方1寸5分	足の太陽膀胱経 外方3寸	外方3寸5分
第1 胸椎棘突起下	陶道	大杼	【肩外兪】 (手の太陽小腸経)	
第2 胸椎棘突起下		風門	附分	
第3 胸椎棘突起下	身柱	肺兪	魄戶	
第4 胸椎棘突起下	㊦巨闕兪	厥陰兪	膏肓	
第5 胸椎棘突起下	神道	心兪	神堂	
第6 胸椎棘突起下	靈台	督兪	諤諤	
第7 胸椎棘突起下	至陽	膈兪	膈関	
第8 胸椎棘突起下				
第9 胸椎棘突起下	筋縮	肝兪	魂門	
第10 胸椎棘突起下	中樞	胆兪	陽綱	
第11 胸椎棘突起下	脊中	脾兪	意舎	
第12 胸椎棘突起下	㊦接脊	胃兪	胃倉	
第1 腰椎棘突起下	懸枢	三焦兪	肓門	㊦痞根
第2 腰椎棘突起下	命門	腎兪	志室	
第3 腰椎棘突起下	㊦下極兪	氣海兪		
第4 腰椎棘突起下	腰陽関	大腸兪		㊦腰眼
第5 腰椎棘突起下	㊦十七椎 (上 仙)	関元兪		

㊦は奇穴

	督 脈	仙骨孔部	正中仙骨稜の 外方1.5寸	正中仙骨稜の 外方3寸
第1 後仙骨孔の高さ		上髎	小腸兪	
第2 後仙骨孔の高さ		次髎	膀胱兪	胞肓
第3 後仙骨孔の高さ		中髎	中膂兪	
第4 後仙骨孔の高さ	腰兪	下髎	白環兪	秩辺